

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

梯川流域は小松市、能美市、白山市の3市が含まれ、約70%が山地となっている。

上流域の溪谷は急峻なV字谷を形成しており、源流域の鈴ヶ岳のブナ林は一部が県自然環境保全地域に指定され、このような自然豊かな環境には「森の王者」クマタカや溪流魚のイワナ等が生息している。また、中流域は丘陵地が広がっており、タヌキやイタチといった哺乳類やおオタカ、サシバの猛禽類、ゴリ料理などで有名なカジカ、釣り愛好家に親しまれているアユなどの比較的身近な動植物が多く生育・生息している。下流域の平野部では低湿な沖積平野が広がり、河床勾配が約1/4,500の緩流河川となっており、その沖積の南西部には海跡湖である木場潟、柴山潟が存在し、北は手取川扇状地と接している。なお、梯川の河口から8.0km付近までは海水と淡水が混ざり合う感潮域となり、海水魚や回遊魚が多く生息している。また、国の重要文化財である小松天満宮には全国的に見ても珍しい大きさのドウダンツツジの古木があり、これは加賀藩の3代藩主前田利常がお手植えされたと伝えられ、樹齢300年以上と推定されている。

このような自然環境の中で、石川県内で確認されている80種の淡水魚類の内、その約63%にあたる50種が梯川水系に生息しており(出典：石川県の淡水魚類(石川県、1996年))、石川県内の河川で最も豊かな魚類相となっており、梯川の最も特徴的な点である。

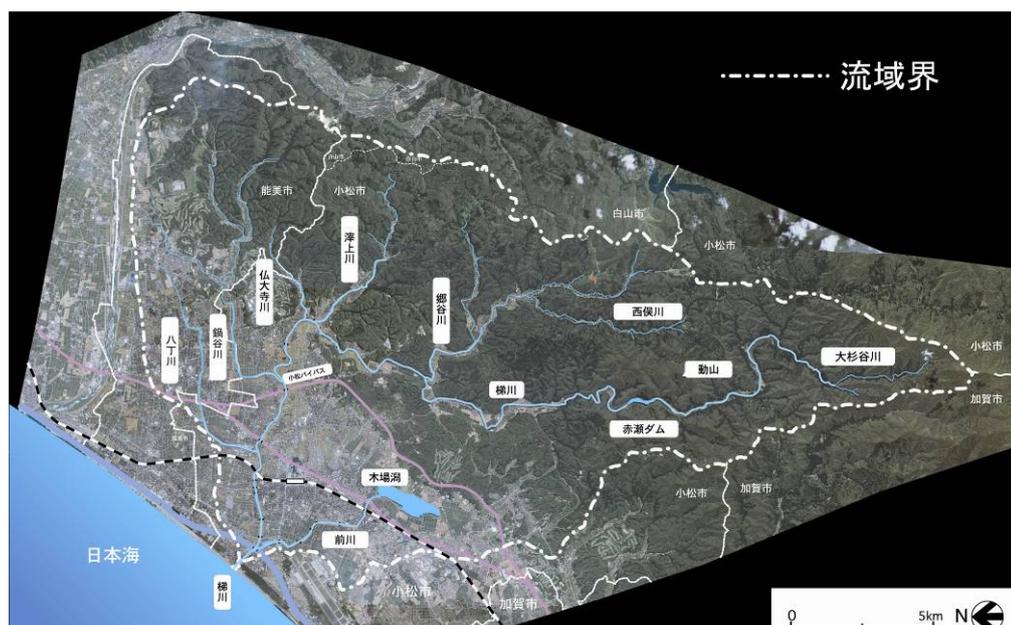
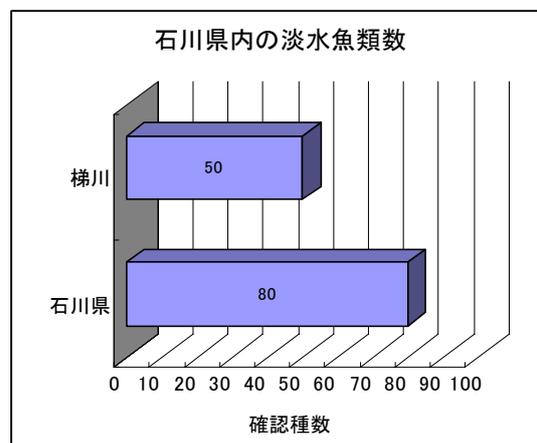


図2-1 梯川流域

2-2 河川及びその周辺の自然環境

(1) 梯川及びその周辺の自然環境

梯川及びその周辺の自然環境について下流域、中流域、上流域の3つに区分し、その概要を以降に示す。

1) 下流域：河口から鍋谷川合流部(0km～8km)



河口より1km付近

下流域は市街地を貫流し、河床勾配が約1/4,500の緩流河川となっているため河口から8.0km付近まで海水と淡水が混ざり合う感潮域が続いている。このため、サッパやメナダといった海産魚やヌマチチブ、カマキリといった回遊魚、タモロコなどの淡水魚が多く生息し県内では最も多くの魚類(50種)が生息する河川となっている。

また、堤防法面は管理された草地が広がり、河川に見られる典型的な群落としてヨシ群落、ススキ群落等が分布している。特にヨシ群落などの抽水植物はメダカの産卵場、オオヨシキリの繁殖地、カメ類の生息地等として重要な場所となっている。

堤防法面の一部には石川県内での生育箇所が少ないセイタカヨシ群落、水際に生育するミクリ、水中に生育するホザキノフサモ、海浜に多く見られるヒナギキョウやトウオオバコといった希少な植物が生息している他、外来種のセイタカアワダチソウ群落や特定外来生物に指定されているアレチウリが生息している。

また、近年ではメダケなどの樹林化が進行している。

草地環境である高水敷や堤防法面にはオオオカメコオロギやワスレナグモといった希少な昆虫類が生息し、さらに、水際が緩斜面となり流れの緩いところではガンカモ類が休息や越冬地として水面を利用している。



ワスレナグモ



セイタカヨシ群落



ミクリ



ホザキノフサモ



ヒナギキョウ



トウオオバコ



イシガメ

2) 中流域：鍋谷川合流部から赤瀬ダム(8km~25km)



河口より 10km 付近

中流域の溪谷を成すところでは加能八景の一つである「荒俣峡」といった風光明媚な溪谷景観(紅葉)が見られ、周辺には里山に多く見られるコナラ林やスギ林、水田等が広がっている。

河川沿いでは流れの速い流水域に発達するツルヨシ群落が生育し、河口から8~9kmに見られる蛇行区間ではヨシ類に繁殖するオオヨシキリや崖地に繁殖するカワセミ、砂礫地に繁殖するイカルチドリ、ススキやヨシ類などで繁殖するカヤネズミ等の多様な生物が生息している。また、河川内の礫床はアユやサケが産卵場として利用しており、中流域に普通に見られるウグイやヨシノボリ類と

いった移動範囲の広い回遊魚が多数生息している。希少な魚類としてはジュズカケハゼとスナヤツメが確認されており、河川の高水敷や堤防沿いでは希少な植物であるウマノスズクサやネズが生息している。また、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクの生育も見られ、近年ではメダケなどの樹林化が進行している。



オオヨシキリ



カワセミ



イカルチドリ



ジュズカケハゼ



スナヤツメ



アユ



カヤネズミ



ウマノスズクサ



ネズ

3) 上流域：赤瀬ダムから上流(25km～42km)



河口より 35km 付近

最上流部では、県自然環境保全地域に指定されている鈴ヶ岳(標高 1,175m)が存在し、この周辺には胸高直径 1m を超える樹齢の高いブナ林が分布している。やや標高が下がるとブナ-ミズナラ林、コナラ林などが分布し、急峻な溪谷沿いではサワグルミやケヤキなどの溪谷林が立地している。このような環境を反映し「森の王者」と呼ばれるクマタカや森林性のコノハズクなどの生態系の上位に位置する鳥類やツキノワグマ、カモシカの大型哺乳類、ヤマメ、イワナの溪流魚、国蝶であるオムラサキ、ムカシトンボ、ムカシヤンマの溪流性のトンボ類、溪流性のカエル類やサンショウウオ類など豊かな自然環境にみられる動植物が生育・生息している。



ブナ林



ヤマメ



イワナ



カモシカ



ムカシヤンマ



ハコネサンショウウオ

(2) 梯川に生育・生息する動植物

梯川における希少な動植物等を既往の河川水辺の国勢調査(H14～H18)等の調査結果を基に、以下の観点から整理した結果を以降に示す。

- ①希少性(生息数が少なく希少な種 表 2-1 参照)
- ②上位性(生態系の上位に位置する種)
- ③典型性(地域の生態的な特徴を典型的に示す種、生息・生育環境)
- ④特殊性(特殊な環境を示す指標となる種、生息・生育環境)
- ⑤移動性(広範囲に渡って移動する種)

表 2-1 希少性の選定基準

法律	文化財保護法における天然記念物
	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の指定種
	ふるさと石川の環境を守り育てる条例の指定種
文献	改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物の掲載種
	石川県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編・植物編)の掲載種

表 2-2(1) 梯川において確認された希少種等一覧表

生物群	No.	科名	種名又は群落名	主な選定理由
植物	1	ヒノキ	ネズ	希少性(石危惧Ⅱ類)
	2	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	希少性(石危惧Ⅰ類)
	3	アリノトウグサ	ホザキノフサモ	希少性(石危惧Ⅱ類)
	4	オオバコ	トウオオバコ	希少性(石準危惧)
	5	キキョウ	ヒナギキョウ	希少性(石危惧Ⅱ類)
	6	イネ	セイタカヨシ	希少性(石危惧Ⅱ類)
	7	ミクリ	ミクリ	希少性(準危惧、石危惧Ⅰ類)
	8	—	ヨシ群落	典型性
	9	—	ススキ群落	典型性
	10	—	チガヤ群落	典型性
	11	—	ツルヨシ群落	典型性
	12	—	セイタカヨシ群落	希少性(石危惧Ⅱ類)、特殊性
	13	—	ウキヤガラマコモ群集	特殊性
	14	—	ジャヤナギーアカメヤナギ群集	特殊性
	15	—	ジャヤナギーアカメヤナギ群集(低木林)	特殊性

表 2-2(2) 梯川において確認された希少種等一覧表

生物群	No.	科名	種名	主な選定理由
魚介類	1	ヤツメウナギ	スナヤツメ	希少性(危惧II類)
	2	スズキ	スズキ	典型性
	3	コイ	ギンブナ	典型性
	4	コイ	アカヒレタビラ	希少性(石準危惧)
	5	コイ	カワムツ	典型性
	6	コイ	アブラハヤ	典型性
	7	コイ	ウグイ	移動性
	8	コイ	タモロコ	典型性
	9	コイ	カマツカ	典型性
	10	キュウリウオ	ワカサギ	移動性
	11	アユ	アユ	移動性
	12	シラウオ	シラウオ	希少性(石危惧I類)・移動性
	13	サケ	サケ	移動性
	14	サケ	ヤマメ	典型性
	15	メダカ	メダカ	希少性(危惧II類)
	16	カジカ	カマキリ	移動性
	17	カジカ	カジカ	典型性
	18	カジカ	カジカ中卵型	移動性
	19	ニシン	サッパ	典型性
	20	ボラ	ボラ	典型性
	21	ボラ	メナダ	典型性
	22	ハゼ	ドンコ	典型性
	23	ハゼ	ミミズハゼ	典型性
	24	ハゼ	スミウキゴリ	移動性
	25	ハゼ	ウキゴリ	移動性
	26	ハゼ	シンジコハゼ	希少性(危惧II類、石準危惧)
	27	ハゼ	ジュズカケハゼ	希少性(石準危惧)
	28	ハゼ	マハゼ	典型性
	29	ハゼ	アベハゼ	移動性
	30	ハゼ	ゴクラクハゼ	移動性
	31	ハゼ	シマヨシノボリ	移動性
	32	ハゼ	オオヨシノボリ	移動性
	33	ハゼ	トウヨシノボリ	移動性
	34	ハゼ	ヌマチチブ	移動性
	35	ハゼ	チチブ	移動性
	36	フグ	クサフグ	典型性
	37	—	アユの産卵場	典型性
	38	—	サケの産卵場	典型性
	39	カワニナ	カワニナ	典型性
	40	テナガエビ	スジエビモドキ	典型性
	41	ヌマエビ	ヌマエビ	典型性
	42	イワガニ	クロベンケイガニ	典型性
	43	イワガニ	モクズガニ	典型性・移動性
	44	サワガニ	サワガニ	典型性
底生動物	1	ヤンマ	コシボソヤンマ	希少性(石準危惧)
	2	—	ウズムシ類	典型性
	3	—	ゴカイ類	典型性
	4	—	イトミミズ類	典型性
	5	—	イシビル類	典型性
	6	—	ヨコエビ類	典型性
	7	イワガニ	モクズガニ	典型性
	8	ミズムシ	ミズムシ	典型性
	9	コツブムシ	イソコツブムシ	典型性
	10	—	コカゲロウ類	典型性
	11	コカゲロウ	エルモンヒラタカゲロウ	典型性
	12	モンカゲロウ	モンカゲロウ	典型性
	13	モンカゲロウ	オオマダラカゲロウ	典型性
	14	エゾトンボ	コヤマトンボ	典型性
	15	カワゲラ	カミムラカワゲラ	典型性
	16	ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	典型性
	17	ナガレトビケラ	ムナグロナガレトビケラ	典型性
	18	—	コエグリトビケラ類	典型性
	19	—	カクスイトビケラ類	典型性
	20	—	カクツツトビケラ類	典型性
	21	—	シマトビケラ類	典型性
	22	—	ガガンボ類	典型性
	23	—	ユスリカ類	典型性

表 2-2(3) 梯川において確認された希少種等一覧表

生物群	No.	科名	種名	主な選定理由
鳥類	1	カイツブリ	カイツブリ	典型性
	2	ウ	カワウ	上位性
	3	サギ	ゴイサギ	上位性
	4	サギ	ササゴイ	希少性(石準危惧)・上位性・典型性
	5	サギ	ダイサギ	上位性
	6	サギ	チュウサギ	希少性(準危惧、石準危惧)・上位性
	7	サギ	コサギ	上位性
	8	サギ	アオサギ	上位性
	9	カモ	オシドリ	希少性(情報不足、石準危惧)
	10	タカ	ミサゴ	希少性(準危惧、石準危惧)・上位性
	11	タカ	オオタカ	希少性(国内、準危惧、石危惧Ⅰ類)・上位性
	12	タカ	ノスリ	希少性(石情報不足)・上位性
	13	タカ	クマタカ	希少性(危惧ⅠB類、石危惧Ⅰ類)・上位性
	14	ハヤブサ	ハヤブサ	希少性(国内、危惧Ⅱ類、石危惧Ⅱ類)・上位性
	15	ハヤブサ	チョウゲンボウ	上位性
	16	クイナ	バン	典型性
	17	チドリ	コチドリ	希少性(石危惧Ⅱ類)・典型性
	18	チドリ	イカルチドリ	希少性(石危惧Ⅱ類)・典型性・移動性
	19	シギ	イソシギ	希少性(石準危惧)・典型性・移動性
	20	カモメ	ユリカモメ	上位性
	21	フクロウ	コノハズク	希少性(石準危惧)
	22	カワセミ	カワセミ	上位性・典型性
	23	セキレイ	キセキレイ	典型性
	24	ウグイス	コヨシキリ	典型性
	25	ウグイス	オオヨシキリ	典型性
陸上昆虫類	1	ジグモ	ワスレナグモ	希少性(準危惧)
	2	コオロギ	オオオカメコオロギ	希少性(情報不足)
	3	タテハチョウ	オオムラサキ	希少性(準危惧、石準危惧)・典型性
	4	—	ミズギワゴミムシ類	典型性
	5	ハンミョウ	アイヌハンミョウ	典型性
	6	シャチホコガ	クワゴモドキシャチホコ	典型性
	7	ハムシ	ヤナギルリハムシ	典型性
	8	ゾウムシ	フタキボシゾウムシ	典型性
	9	コガネムシ	シロテンハナムグリ	典型性
	10	—	イトトンボ類	典型性
	11	カワトンボ	ハグロトンボ	典型性
	12	トンボ	シオカラトンボ	典型性
	13	—	アメンボ類	典型性
	14	—	ガムシ類	典型性
	15	—	ゲンゴロウ類	典型性
	16	ナガカメムシ	コバネナガカメムシ	典型性
	17	アリ	トビイロシワアリ	典型性
両生類 ・爬虫類 ・哺乳類	1	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	典型性
	2	イモリ	イモリ	希少性(準危惧)
	3	ヒキガエル	ナガレヒキガエル	典型性
	4	イシガメ	クサガメ	上位性・典型性
	5	イシガメ	イシガメ	希少性(情報不足)・上位性・典型性
	6	ヘビ	シロマダラ	希少性(石準危惧)
	7	ネズミ	カヤネズミ	希少性(石情報不足)・典型性
	8	クマ	ツキノワグマ	上位性
	9	イヌ	キツネ	上位性
	10	イタチ	イタチ	上位性
	11	ウシ	カモシカ	希少性(特天)・上位性

-凡例-

【文化財保護法】

特天：国指定特別天然記念物

【絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律】

国内：国内希少野生動植物種

【改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック(環境省、2000～2007年)】

危惧ⅠB類：絶滅危惧ⅠB類

危惧Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：準絶滅危惧

情報不足：情報不足

【石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック(石川県、2000年)】

石危惧Ⅰ類：絶滅危惧Ⅰ類

石危惧Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類

石準危惧：準絶滅危惧

石情報不足：情報不足

(3) 梯川の特殊な環境

梯川の特殊な環境としては、以下に示す2箇所が挙げられる。

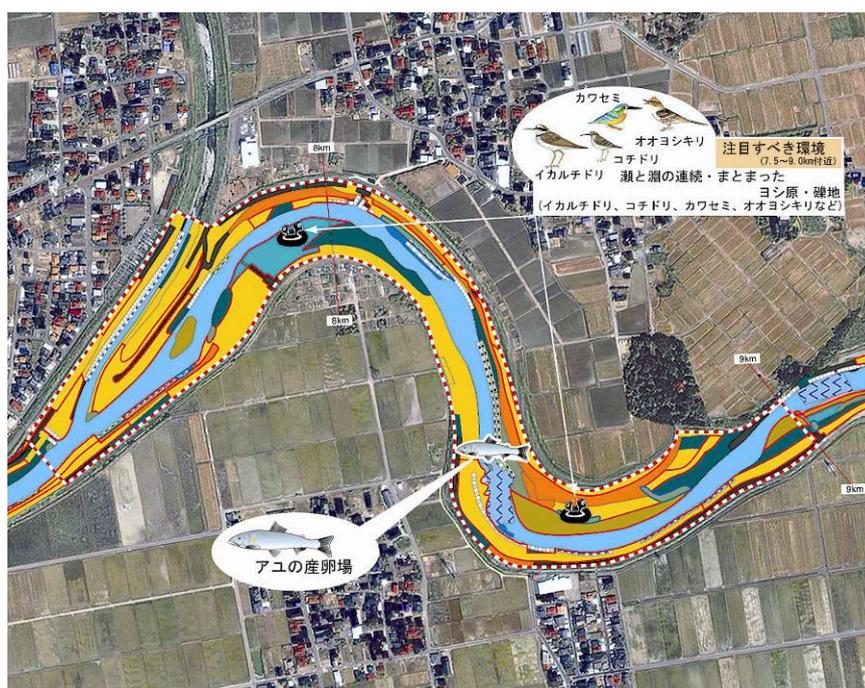
山地からの細流とその周辺：左岸側11.5km付近(軽海頭首工背後周辺)

山地から細流が流れ込み湿地になっていることからヤマカガシ、カエル類などが生息し、また、頭首工背後の止水域を利用してオシドリなどの水鳥の休息地として利用されている。



唯一の蛇行区間(8.0km付近：瀬と淵の連続、まとまった礫地、ヨシ原)

イカルチドリ、カワセミ、オオヨシキリ、コチドリなど鳥類の重要な繁殖地となっており、また、アユの産卵場が存在している。



(4) 梯川における自然環境の特徴

梯川における自然環境の概要については前述のとおりであるが、特筆すべき特徴についてまとめると以下に示すとおりである。

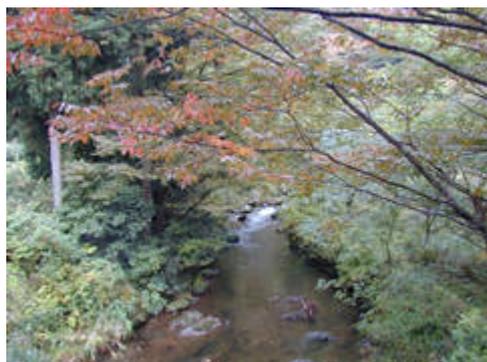
- 梯川は石川県内で確認されている 80 種の淡水魚類の内、その約 63%にあたる 50 種が梯川水系に生息しており(出典：石川県の淡水魚類(石川県、1996 年))、石川県内で最も豊かな魚類相となっている。
- 河口から 8km 付近の蛇行区間ではイカルチドリ、カワセミ、オオヨシキリ、コチドリなど鳥類の重要な繁殖地となっており、この付近から瀬や淵が出現し始め、アユやサケの産卵場が存在している。また、ヨシ類などには県内での確認例が少ないカヤネズミが繁殖している。
- 軽海頭首工背後周辺では山地から細流が流れ込み湿地になっていることからヤマカガシ、カエル類などが生息し、また、頭首工背後の止水域を利用してオシドリなどの水鳥の休息地として利用されている。
- 梯川には石川県内でも生育地の少ないセイタカヨシ群落が河川敷等に生育しており、水際部にはツルヨシ等の抽水植物が広く分布している。
- 源流域の鈴ヶ岳のブナ林は一部が県自然環境保全地域に指定され、このような自然豊かな環境には「森の王者」と呼ばれるクマタカや溪流魚のイワナが生息している。

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

梯川の上流部では、源流となる大杉谷川に加賀八景の1つに数えられる景勝地荒俣峡があり、河畔には奇岩が連なり、秋には川面から山の頂上まで紅葉・黄葉する。

下流部の前川上流には木場潟があり、小松市街地の南にある柴山潟や干拓工事で今は姿を消した今江潟とともに「加賀三湖」といわれていた。面積は114haと狭く、深さは最も深い場所で2mほどしかないが、三湖のうちで唯一干拓されずに残された潟である。一部は水郷公園として整備されているが、本来の植生がかなり残っており、岸边や水辺では野鳥の姿が見られる。周辺は公園として利用され、運動広場、レストハウス、ボート乗り場などが備えられている。



荒俣峡

写真出典：きまっし金沢ホームページ



木場潟

写真出典：石川県ホームページ

(2) 文化財等

梯川の流域は古くから人間の生活が営まれており、流域全体に渡って縄文時代や弥生時代の遺跡が多く見られる。また、古代には梯川中流の丘陵地と平地の境目付近が加賀地方の中心であったため、寺井町の「和田山・末寺山古墳群」(国の史跡に指定)や加賀三湖東部の丘陵に多く分布する古墳から、須恵器(非常に硬く焼き締まった焼き物で、朝鮮半島からその製法が5世紀に伝えられた焼き物)から加賀古陶までの長い期間の窯跡が多く確認されている。また加賀国府が存在したと思われる中流付近にも寺院跡などの遺跡も多い。

古代から中世にかけて、梯川河口の安宅は海上交通の要地、中流域の能美町から中海町にかけては加賀国府や白山中宮八院などの政治・宗教の中心地が存在した。海岸沿いの交通上の要地である安宅は、海港として、また梯川の内陸水運への接続点として重要な地であり、歌舞伎の「勸進帳」やその原作である能の「安宅」でも良く知られている。

寛永16年(1639年)に三代藩主前田利常の隠居城を小松に構え、小松がこの地方の中心的位置を占めるようになったことから、梯川流域には前田家ゆかりの史跡が多く存在する。

表 2-3 国・県指定文化財

市	名 称	指定区分	分 類
小松市	<small>なただら</small> 那谷寺 本堂(本殿附厨子、唐門、拝殿)	重要文化財	建造物
	那谷寺 三重塔	重要文化財	建造物
	那谷寺 護摩堂	重要文化財	建造物
	那谷寺 鐘楼	重要文化財	建造物
	那谷寺 書院及び庫裏	重要文化財	建造物
	那谷寺庫裏庭園	国指定記念物	名勝
	小松天満宮 本殿・石の間・幣殿及び拝殿	重要文化財	建造物
	小松天満宮 神門	重要文化財	建造物
	<small>からようちんきんすずりばこ</small> 花鳥沈金硯箱(1合)	重要文化財	工芸品
	<small>きんきしよがちんきんぶんだい</small> 琴棋書画沈金文台(1脚)	重要文化財	工芸品
	小松天満宮連歌書	県指定文化財	典籍
	<small>よしじま</small> 葭島神社本殿	県指定文化財	建造物
	絹本著色光明本尊	県指定文化財	絵画
	兜一頭、袖・臍当(各一双)[多太神社]	重要文化財	工芸品
	<small>ごったんふねい</small> 兀庵普寧墨蹟(大慧宗杲答呂舍人法語)	重要文化財	書跡
	住生要集 [聖徳寺]	重要文化財	書跡
	白山麓西谷の人生儀礼用具及び民家 (人生儀礼用具)	重要文化財	有形民俗文化財
白山麓西谷の人生儀礼用具及び民家(民家)	重要文化財	有形民俗文化財	
安宅の関跡	県指定文化財	史跡	
<small>あさいなわて</small> 浅井 畷古戦場	県指定文化財	史跡	
能美市	吉光の一里塚	県指定文化財	史跡
	寺井山古墳群	県指定文化財	史跡
	和田山・末寺山古墳群	国指定文化財	史跡

出典：小松の文化財(1991 小松市教育委員会発行)、石川県観光要覧(1988 石川県)



那谷寺本堂



浅井畷古戦場



安宅の関跡

写真出典

那谷寺本堂、浅井畷古戦場：小松の文化財（1991 小松市教育委員会発行）
安宅の関跡：石川県小松市発行パンフレット「安宅の関」

表 2-4 前田家ゆかりの史跡

名 称	概 要
<small>あさいなわて</small> 浅井畷古戦場 (小松市大領町)	木場潟にある浅井畷では、慶長 5 年(1600 年)関ヶ原の合戦の前哨戦として、金沢城主前田利長(東軍方)と小松城主丹羽長重(西軍方)が戦った。この勝利によって前田家は加越能 3 カ国の領有を確実にした。
小松城址 (小松市丸の内町)	当時付近は湿地帯で梯川が城を取り巻き芦城、小松浮城とも呼ばれた。寛永 16 年(1639 年)利常が隠居城にすることを幕府に許されると本格的に造営、翌年入城した。万治元年(1658 年)利常が死去するまで使用され、現在は本丸櫓台石垣のみが残る。
那谷寺 (小松市那谷町)	養老元年(717 年)泰澄によって開山されたという。中世には中宮三ヶ寺のひとつで白山信仰の拠点であったが、利常が寛永 17 年(1640 年)に再興、三重塔、本堂、護摩堂、鐘楼、書院等を建立した。
小松天満宮 (小松市天神町)	明暦 3 年(1657 年)利常が小松城に隠居後、菅原道真を祀り、小松城鎮護の意味も含め、小松城の鬼門の地である現在の地に建立された。別当には連歌師で北野天満宮神官の能順を招いた。
<small>らいしょうじ</small> 来生寺 (小松市園町)	寛永 17 年(1640 年)前田利常が隠居城とするため、従来の城を大修復した。二の丸の門は鰻橋御門と呼ばれたが、明治 5 年(1872 年)城の取り壊しの際、移築され寺門となった。小松城の当時をしのぶ数少ない遺構である。
前田利常公の灰塚 (小松市埴田町)	前田利常は、産業開発に力を入れ、製茶を奨励し、三宅野台地(現在の埴田町近辺)が土壌、地形が茶の栽培に適し、香りも良質であるということで、茶畑に指定した。それが縁で、茶の香りが漂う一角に遺骨の一部を葬るように申し残されたと伝えられている。

出典：小松市ホームページ



小松天満宮本殿



小松城本丸櫓台石垣

写真出典：小松の文化財 (1991 小松市教育委員会発行)

2-4 自然公園等の指定状況

梯川上流域には、県立自然公園1箇所、県自然環境保全地域2箇所、県指定鳥獣保護区2箇所が指定されている。

獅子吼・手取県立自然公園は、獅子吼高原、鳥越高原とその間を流れる手取川中流部の手取峡谷が中心であり、金沢市近郊の日帰りレクリエーション地としてハイキング利用が多く、また、冬季には近郊スキー場として利用されている。手取峡谷は延長約10kmにわたり、河岸段丘を深くえぐって流れる峡谷で、錦滝、五色滝などの瀑布も見られる。

表 2-5 梯川流域内自然公園および自然環境保全区域

自然公園	公園名	指定年月日 (変更年月日)	面積(ha) (石川県分)	関係県	関係市町村		興味地点	
		獅子吼・手取県立自然公園	S42.10.1 (S60.5.28)	6,410	石川	金沢、小松、鶴来、吉野谷、鳥越		獅子吼高原、鳥越高原、手取峡谷
県自然環境保全地域	地域名	面積 (ha)	特別地区		普通地区 (ha)	主要保護対象	所在 市町村名	指定 年月日
			野生動植物 保護地区	その他				
		観音下	2.0	—	—	2.0	標高7~15mにわたるスダジイ林	小松市
	鈴ヶ岳	34.8	—	34.8	—	樹齢の高いブナの天然林	小松市	S55.10.28

出典：平成12年度版石川県環境白書

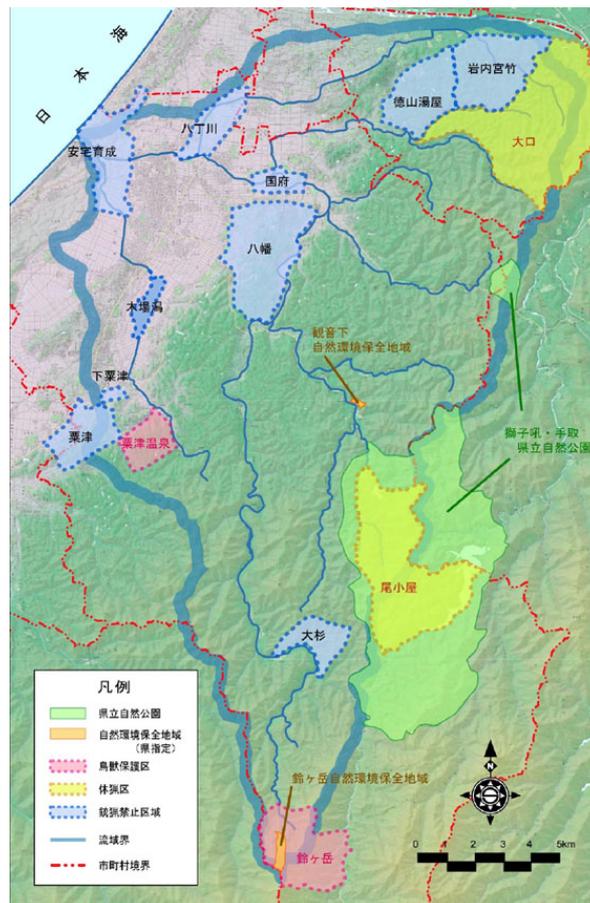


図 2-2 自然環境保全地域位置図

資料：石川県の自然公園・自然環境保全地域等配置図(平成9年3月)、平成13年度石川県鳥獣保護区等位置図より作成